



くみあいたより

# JAなんぼろ



JAなんぼろホームページアドレス <http://www.ja-nanporo.or.jp>

## 令和6年産新米の収穫開始

9月上旬頃より、町内で令和6年産の水稻の収穫作業が始まりました。

本年は、昨年ほど高温が続いてはいないものの、平年に比べて若干早めに成熟期を迎えました。

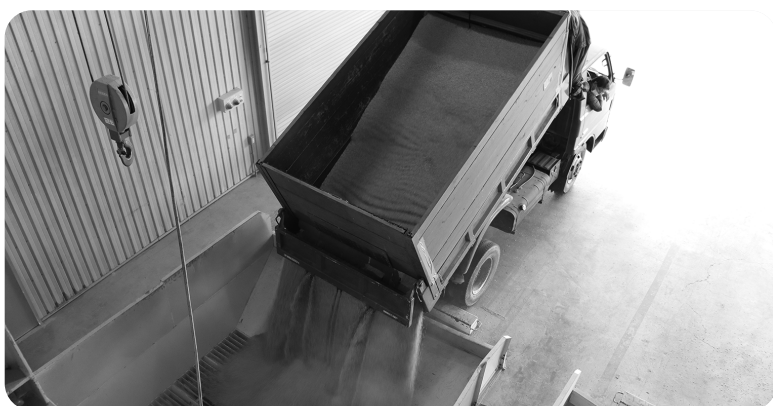
9月も中旬に入ると、町内各所でコンバインがフル稼働しており、無事収穫を終えた組合員

からは、安心した様子がかがえました。

9月5日（木）より、ライスターミナルでの

受け入れが開始され、トラックスケールでは運搬トラックが列を作り、出荷に訪れていました。

10月からは、大豆やてん菜等の収穫が本格化してきます。農繁期を迎えていますので、農業中の事故には十分に注意して焦らず作業を行って下さい。



## 水稻の稔実調査を実施

8月29日（木）、町内水稻圃場で不稔調査を行いました。調査には、町・普及センター・JA職員が出席し、43圃場からサンプルを採取し、総粒数と不稔粒数を数え、不稔歩合を調査しました。

町内平均の総粒数は、36,845粒/m<sup>2</sup>と平年値より若干多めの数値となり、不稔率は、6.2%と例年（過去13年平均：8.7%）に比べるとやや低い結果となりました。なお、品種毎の不稔率は、「きらら397」が5.4%、「なつぼし」が6.6%、「ゆめぴりか」が5.4%、「きたくりん」が12.8%となりました。

本年は、穂数は平年並みでしたが、一穂粒数は平年値103%とやや多かったことから、総粒数は平年値104%となりました。また、不稔歩合は6.2%と平年よりも2.5%低く、稔実粒数が多いため、収量は期待できそうです。



## 秋季講習会開催

8月30日(金)、JAなんぼろ3階大会議室で、令和6年度秋季講習会が開催されました。今年度の講習会は、小麦生産者に加え水稻生産者も対象とし、生育や病害に関する情報提供を行い、生産性向上を図ることを目的として行われました。

講師には、空知農業改良普及センター空知南西部支所の古館地域係長、大山専門普及指導員、植松専門普及指導員、クミアイ化学工業株札幌支店販売課の石田氏、JAなんぼろ資材課の長船技師の5名が登壇し、講義を行いました。

大山普及員からは、乾田直播の現在までの生育状況の説明と、気象変動による水稻への影響につ

いて説明されました。植松普及員からは、令和6年産秋小麦の生育概要と令和7年産に向けた技術指導について、町内での調査結果をもとに詳細に

説明されたのち、古館係長から、湛水処理が後作の秋まき小麦に与える影響について説明されました。また、石田氏からは水稻、小麦それぞれの除草剤の効果的な取り扱い方法について解説がありました。長船技師は秋まき小麦の北海道における南幌町の位置づけについてや、町内の土壌改良の取り組みを踏まえた小麦の生産性向上の事例を紹介し、令和7年産の水稻、秋まき小麦の栽培に向けて非常に有益な講習会となりました。



## 熱戦のパークゴルフ大会

9月12日(木)、南幌町中央公園でJAなんぼろ年金コスモスの会パークゴルフ大会が開催されました。

当日は、33名の会員が参加し、皆さんパワフルなプレーで熱戦が繰り広げられる中、見事総合優勝に輝いたのは、山田国広さん(11区)、男性の部1位は、井上保弘さん(西町)、女性の部1位は、砂山恵美子さん(緑町)でした。また、ホールインワンを達成した方も5名おり、皆さん日頃の練習の成果を十分に発揮しながら、楽しくプレーし交流を深めていました。



## 学習田観察学習

8月28日(水)、織田章氏(鶴城)の水稻ほ場にて、南幌小学校の5年生が5月に田植えをした学習田の観察学習を行いました。

当日は、織田氏より田植えをしてからどのような管理をしてきたのかについてや、現在、穂に入っている粒がどのような状態なのか等についての説明があり、真剣な表情で聞いていました。

その後、自身のタブレットで写真を撮ったり、友達と稲の状態について話したりしながら自分たちが植えた稲を自由に観察していました。

最後に用水路の水はどこからきているのか、稲が一部倒れてしまっているのかはなぜか等の鋭い質問があり、小学生たちにとってより知識を深めるよい機会となりました。



## 中学生農業を体験

9月10日(火)、11日(水)の二日間、南幌中学校の1年生が町内の農業生産法人で農業体験を行いました。

本年は、(有)ライフ、(株)響、(有)豊夢、(株)アシル、(有)NOAH、の5法人の協力により実施されました。

各法人では、収穫作業、選果作業、出荷用タノンボールの組み立てや農業機械の見学など特色のある体験内容でした。

初めて農業を体験する生徒たちは、慣れない作業に戸惑っていたり緊張していたりしましたが、従業員のの方々よりやさしく教えてもらいながら、楽しそうに農作業を体験していました。

生徒からは、「こんなに大変な作業を朝から夜まで行うことはすごいと思う。なるべく好き嫌いをせずに野菜を食べていきたい」との声がありました。

未来ある子供たちが南幌町農業や食について学ぶよい機会となりました。



## くるるの杜野菜収穫体験ツアー

8月22日(木)、JAなんぼろ青年部では、ホクレン「くるるの杜」主催の野菜収穫体験ツアーの受け入れを行いました。

当日は、3人家族2組が体験に訪れ、盟友の高島裕也氏(有NOAH)が受け入れを担当し、ミニトマト、長ネギ、スイートコーンの収穫体験や試食、加工場の見学を行いました。ツアーに参加した家族からは、「南幌町の野菜はとても甘くておいしかった」、「長ネギの選果を初めて見て、勉強になりました」との声がありました。

今回の体験ツアー受け入れは南幌町の農業の魅力伝える良い機会となりました。今後もこのような活動を続けていきたいと思えます。



## 青年部幼稚園キャベツ収穫体験

9月5日(木)、JAなんぼろ青年部では、南幌みどり野幼稚園の畑にてキャベツの収穫体験を実施しました。

7月に園児たちの手によって植えられたキャベツは、多少の虫食いはあったものの、生産されているキャベツとほとんど遜色のないものが沢山できていました。

園児たちは元気に収穫をおこない、南幌町のキャベツを知ってもらおう良い機会となりました。



# 長船技師による営農情報！



## 除草剤を効果的に使いましょう

秋播き小麦のは種作業が終了し、除草剤散布作業などの管理作業などで忙しい毎日かと思えます。今月は効果的な除草剤散布について説明したいと思います。

### 1 雑草対策の重要性

雑草の繁茂を放置すると、直接的には養水分の競合や光線不足などで作物収量に影響することが多く、間接的には病害虫の発生源になるなど悪影響が多くなります。

### 2 除草剤使用上の基本事項

使用する除草剤の選択

↓  
薬量の決定

↓  
作業方法・時期の決定

- ・必ず使用前に、説明書をよく読み、使用方法時期・使用量を確認します。
- ・散布は、風向きに等に十分注意し、ドリフトに注意します。
- ・散布時には、マスク・手袋など着用します。
- ・使用後は、器具の洗浄を行います。

表1 除草剤の使用時期

区分	使用時期
は種直後	は種当日～1日後
は種後	は種後2日～5日後
出芽前	は種後6日～出芽2日前
出芽直前	出芽の前日
出芽始め	1個体でも出芽を認めた日
出芽期	40～50%の出芽を認めた日
出芽揃い	80%の出芽を認めた日

### 3 除草剤の処理方法

#### (1) 土壌処理

土壌処理剤の上手な使い方

- ・土壌の碎土・鎮圧を丁寧に行い、均一に散布します。
- ・散布水量は登録上の水量(100ℓ/10aが原則)とするが、土壌が乾いている場合登録の範囲内で水量を多くする方が効果的です。
- ・水分により処理層を形成するので、土壌が過乾燥・過湿の時は使用を避けます。

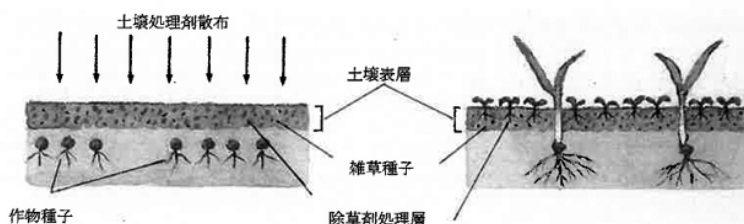


図1 土壌処理

#### (2) 雑草茎葉処理

雑草茎葉処理剤の上手な使い方

表2 雑草の草丈と水量の関係

雑草の草丈	水量(ℓ/10a)
5cm以下	75ℓ
5～15cm	75～100ℓ
15～30cm	100～150ℓ
30～50cm	150～200ℓ

- ・散布液はまんべんなく散布すると効果が安定します。
- ・朝露・降雨後は雑草がぬれているため薬剤が薄まり効果が悪くなるなることがあるので注意します。
- ・希釈水量は100ℓ/10aを原則とするが、雑草が繁茂している場合は、登録の範囲内で十分かかるまで水量を増やします。

#### (3) 共通注意事項

- ・砂土系の有機物の少ない土壌では、薬剤の移動性が大きく薬害が発生しやすい。
- ・土壌条件に応じて使用量の調整が必要。

参考資料:北海道農業入門 野菜編

# JAグループ北海道の農政活動強化に向けて

## 第1回「東野秀樹」氏が組織代表に決定

全国のJAグループの農政組織である全国農政連では、現在JAグループ代表として現職である参議院議員「山田としお」氏が任期満了で退任することを受け、来年夏の参議院選挙に向けて、引き続きJAグループの候補者を擁立することとなりました。

これを受け、北海道のJAグループで組織する北海道農協政治連盟では、本道農業・JAを取り巻く環境が厳しさを増す中、「北海道から農民代表を国政に送るべき」との強い意見を踏まえ、現在ホクレン代表監事で、JA道北なよろ会長である「東野ひでき」氏を、全国JAグループの推薦候補者とすべく、擁立した経過にあります。

全国段階では、千葉県からも1名の立候補があったため、組織内で予備投票を行った結果、東野ひでき氏が全国のJAグループの組織内候補として決定いたしました。

今後、全国のJAグループの代表として活動いただくために、地元北海道として支援の輪を広げてまいります。



東野ひでき公式  
LINEアカウントへの  
登録はこちらから



【JAグループ北海道の農政活動強化に向けて】と題し、農政活動や参議院選挙の仕組みなどを、来年夏頃まで連載いたします。  
次回(第2回)は、東野ひでき氏の主張や人柄について紹介します。

東野ひでき北海道後援会

# 理事会報告

## 9月10日

9月定例理事会で審議された主な内容について、次のとおり報告申し上げます。

### 議案

1. 令和6年度産小麦の共同計算精算方針の設定について
2. 固定資産の取得について
3. 定款第54条第3項の規定による利益相反取引の承認について
4. マネロン等防止に係る取組状況（リスク評価書）について
5. 規程等の改正について
6. 固定資産の除却について
7. 出資金の減口について

### 報告事項

1. 令和6年度畑作物の直接支払交付金における営農継続支払の交付について
2. 第5回 営農振興組合長会議の開催結果について
3. 農産物の生育状況について
4. 令和6年度産米の系統共計契約について
5. 令和6年度産特定低品位米の仮渡金支払いについて
6. 8月末 農産物保管状況について
7. 8月末 野菜販売状況について
8. 令和6年度 南幌町穀類乾燥調製貯蔵施設小麦操業状況について
9. 8月期 J A ローンの貸付について
10. 内部監査の実施報告について
11. 令和6年度 8月末組合員の異動状況について
12. 令和6年度 第2四半期の固定資産取得および処分について
13. 農業協同組合法第94条第4項の規定に基づく常例検査について  
要領の改正について
14. J A 夜まつりの実績報告について
15. 固定資産の賃貸について
16. 8月末 財務状況について
17. 8月末 財務状況について

## 年金・ローン・共済相談会の開催について



©よりぞう

開催日時: 令和6年10月19日(土)

午前9時30分～午後3時00分

開催場所: JAバンクなんぼろ



©よりぞう

※社会保険労務士の先生が当JAに来所します。年金に関する疑問を解決する良い機会ですので、ご都合の良い時間にお越し下さい。

※ご相談の際には、ねんきん定期便又は年金請求書（日本年金機構から送付された書類）・年金手帳・年金証書・雇用保険被保険者証・認め印・配偶者の方の年金手帳等をご持参下さい。

※ローン・共済のご相談もお待ちしております。平日にご来店が難しい方も、ぜひご利用下さい。

JAバンクなんぼろ 電話:378-1891

## 私達のJA

令和6年8月末日現在

組合員 2,629名  
(前年同期比 ▲39名)

正組合員 418名  
(前年同期比 ▲15名)

准組合員 2,211名  
(前年同期比 ▲24名)

正組合員戸数 263戸  
(前年同期比 ▲10戸)

## 編集後記

9月に入り、昼夜の寒暖差が激しい日が続いております。非常に体調を崩しやすい時期でもありますので、気を付けて過ごしましょう。

くみあいだより担当の上地は、久しぶりに実家に帰り、セロリーの収穫を手伝いました。

